

シエンタ モデリスタ バージョン

フロントプロテクター 取付要領書

設定型式:MXPC1#G、MXPL1#G 設定グレード:全車

このたびは、モデリスタ商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
本書は、**フロントプロテクター**の取付要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読み頂き、正しい取り付けを行なって下さい。

取り付け上の注意事項

- 取り付け前に車両に傷がついていないか点検して下さい。
- エンジンがかかっている状態では絶対に作業を行なわないで下さい。
- 車両部品の取り外しに際して、紛失や混乱がない様に部品ごとに整理して、復元する際間違えない様配慮して下さい。また、部品に傷を付れたりしない様に取り扱いに注意して作業を行なって下さい。
- 本書で指示した部品以外は、取り外さない様注意して下さい。
- 商品を取り付ける部分の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで拭き取って下さい。
- 両面テープを貼り付ける部分は、必ず脱脂して下さい。
脱脂作業を怠ると両面テープを接着しても剥がれる場合があります。
- 両面テープの接着力促進剤として、**必ず両面テープ用プライマーを塗って下さい。**
(PACプライマーN-200を本品に添付)
- 重要** プライマーの効力を発揮させる為、塗布後、**常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。**
- 重要** ■両面テープは、**外気温が20℃以下になると接着力が低下しますので、両面テープ及び被接着面をドライヤー等で温めてから貼り付け作業を行なって下さい。**
- 両面テープのプライマーは、溶剤が揮発するため速やかに作業を終了して下さい。
- 両面テープのプライマーは、塗装面を黄変させますので必ず塗装面をマスキングし、はみだしたプライマーは、イソプロピルアルコール(IPA)等で完全に拭き取って下さい。
- ボディーコートが塗布されている車両は塗装用コンパウンドでボディーコートを剥離して下さい。
(必ずマスキングし、なるべく細かい番手で行なう。) ボディーコートが塗布されている車両は脱脂作業を行なっても、プライマーの接着力促進効果を十分に発揮できない場合があります。
ボディーコート除去後は、イソプロピルアルコール(IPA)等で脱脂をきちんと行なって下さい。
- 重要** ■**両面テープの圧着を充分に行なって下さい。49N(5kgf)**
- フェンダーアーチ部等のビス本締めは両面テープ貼り付け後3時間以上放置後行なって下さい。

取り付け完了後の点検・注意事項

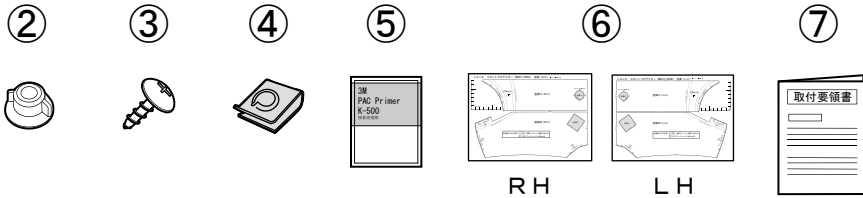
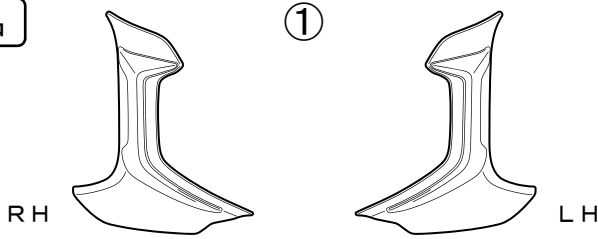
- フロントプロテクターが、車両に確実に共締めされているか点検して下さい。
- 両面テープの全ての離型紙が剥がされ、**確実に圧着されているか点検して下さい。**
- 取り付け完了後、**フロントプロテクター及び車両部品に傷がついていないか点検して下さい。**
- 取り付け完了後、**最低3時間**は強い力をかけたり、雨等で濡れない様注意して下さい。
(両面テープの剥がれ、車両とフロントプロテクターとの間に隙間が発生するおそれがあります。)



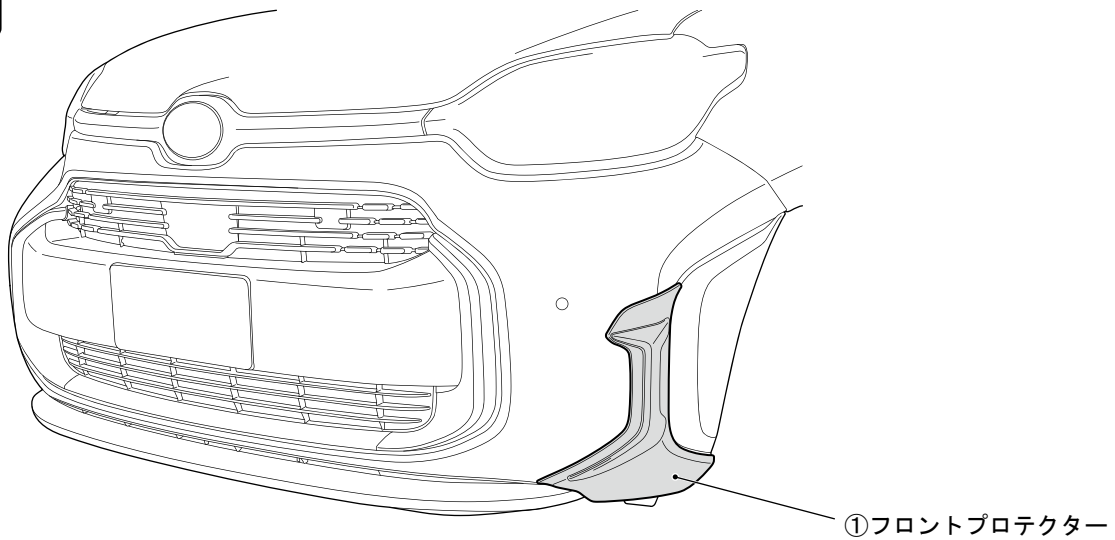
アドバイス…この取付要領書では、スピーディーに安全な作業をして頂く上で知っておいて頂きたい事を左図マークで表示しております。

構成部品

No.	品名	個数
①	フロントプロテクター (RH/LH)	各 1
②	クリップナット	2
③	タッピングスクリュー (M4×12)	2
④	Uナット (M4)	2
⑤	PACプライマー (N-200)	1
⑥	型紙 (RH/LH)	各 1
⑦	取付要領書	1



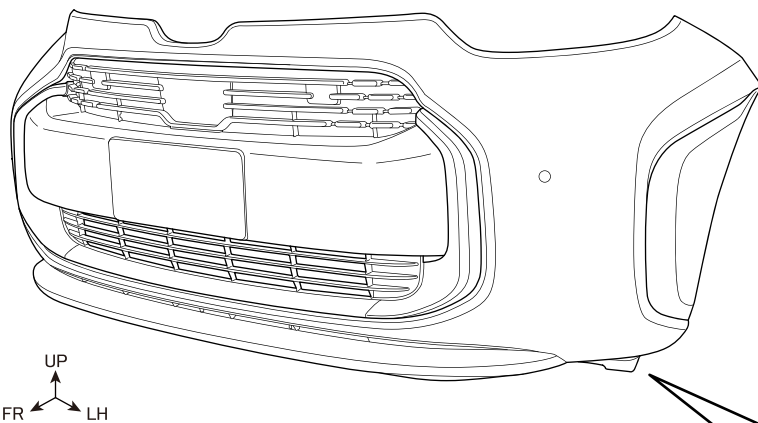
取付概要



取付手順

(1) 部品の取り外しと車両穴開け

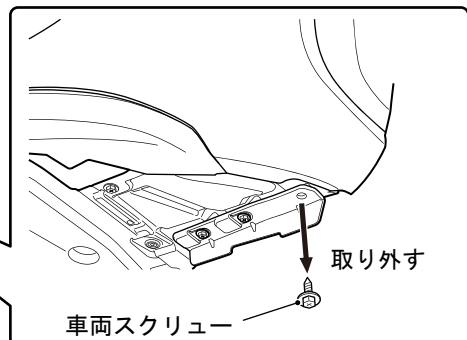
LH図示 ※RHも同様に



1. 車両スクリューを取り外す。
(左図参照)

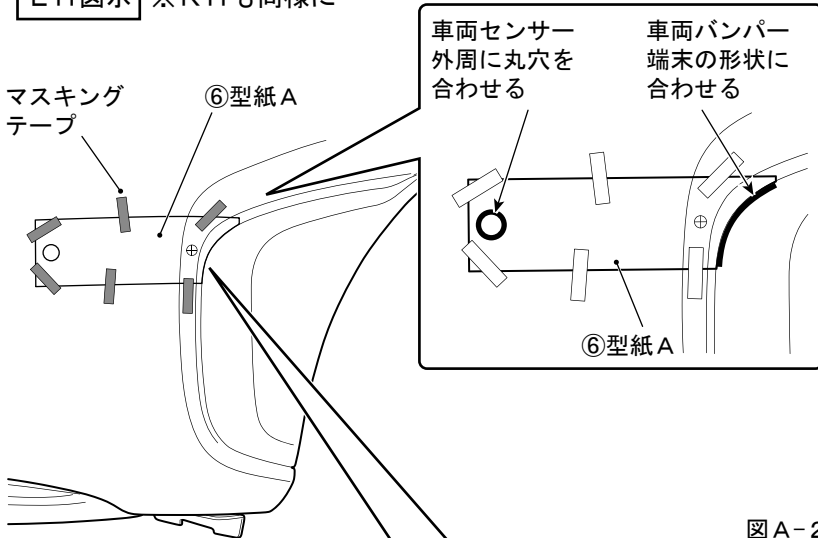
アドバイス

取り外した車両スクリューは再使用しますので紛失しないように注意して下さい。

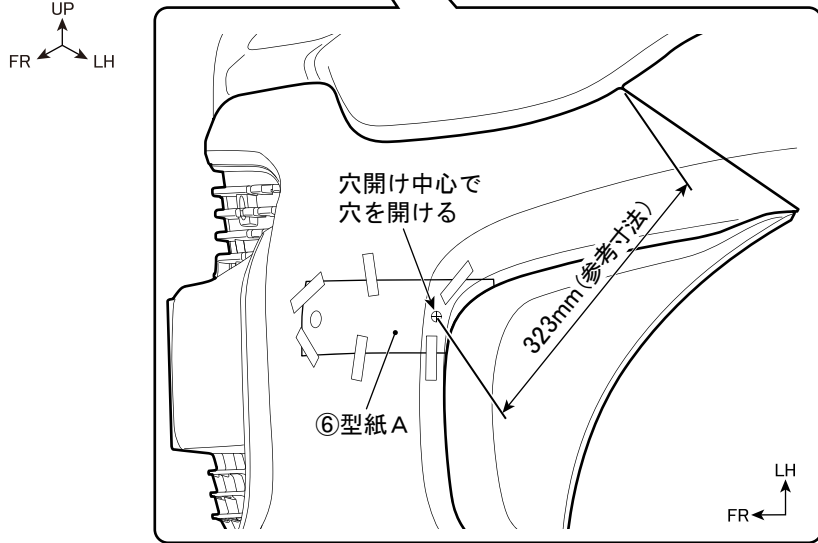


LH図示 ※RHも同様に

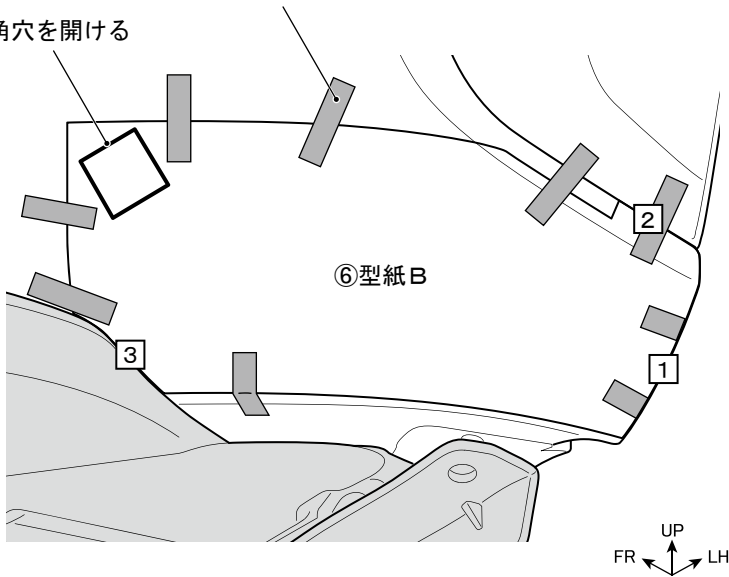
図A-1



図A-2



角穴を開ける



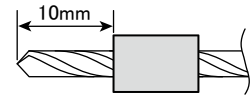
2. ⑥型紙Aを切り取り線で切り抜き、切り抜いた丸穴を車両センサーの外周に合わせながら、車両バンパー末端の形状に合わせ、マスキングテープで貼り付ける。
(図A-1参照)

※穴開け中心位置と、ヘッドライト下のバンパー末端の寸法が323mm(参考寸法)になっていることを確認し、穴開け中心でφ3.0の穴を開け、⑥型紙Aを取り外し、φ3.0の穴を下穴にφ6.0 → 本穴φ10.0の順で穴を開ける。
(図A-2参照)



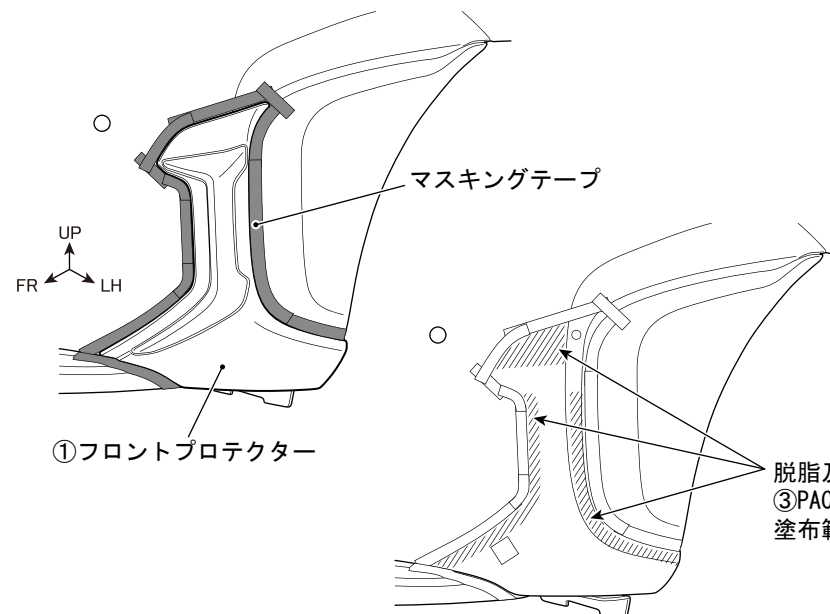
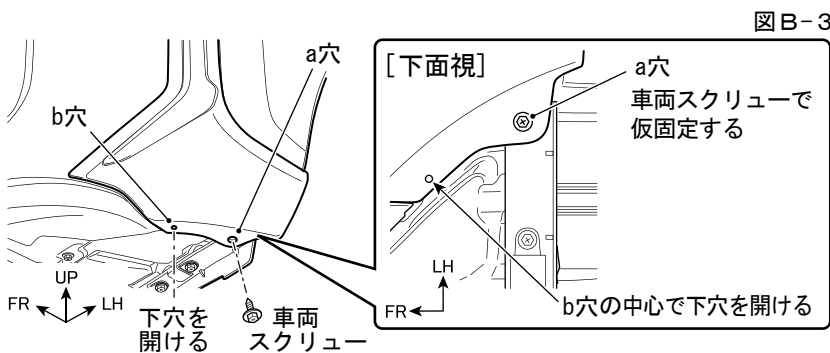
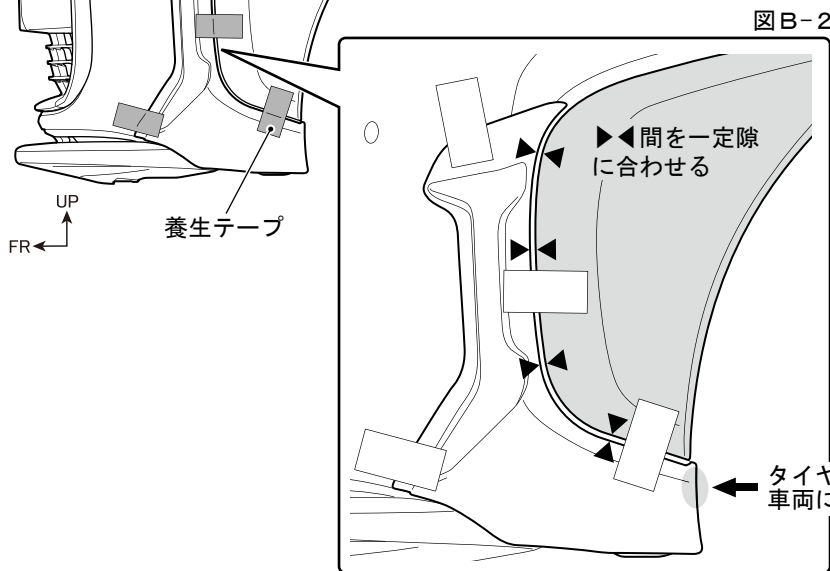
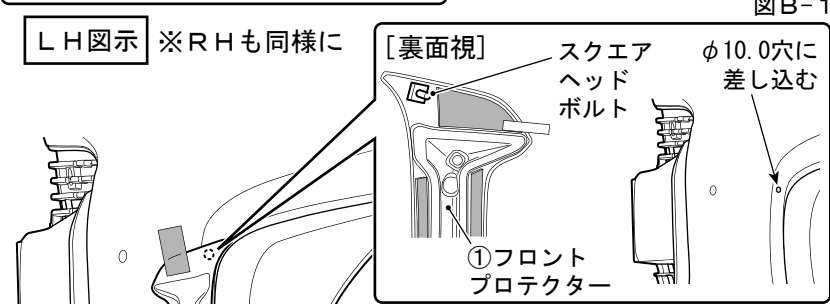
アドバイス

傷つき防止のため、ドリル先端から約10mmの位置に、養生テープ等を巻いてください。



3. ⑥型紙Bを切り取り線で切り抜き、車両バンパー末端に①、②の順で合わせ、③を車両ローアバンパーに合わせてマスキングテープで貼り付ける。切り抜いた四角の位置をマーカー等でバンパーにマーキングする。
⑥型紙Bを取り外し、マークに合わせて角穴を開ける。ヤスリ等でバリを取る。
(左図参照)

(2) 仮合わせとプライマー塗布



- ①フロントプロテクターのスクエアヘッドボルトを、車両バンパーに開けたφ10.0の穴に差し込む。
(図B-1参照)

タイヤハウス面を車両に押し当て、下面のa穴位置を車両スクリューで仮締めする。
①フロントプロテクターと車両バンパーの黒樹脂部の隙(▶◀間)を側面から見て一定隙になる様に合わせ、養生テープで仮固定する。
(図B-2、B-3参照)

下面のb穴の中心で車両バンパーに、下穴をあける。
(図B-3参照)

アドバイス

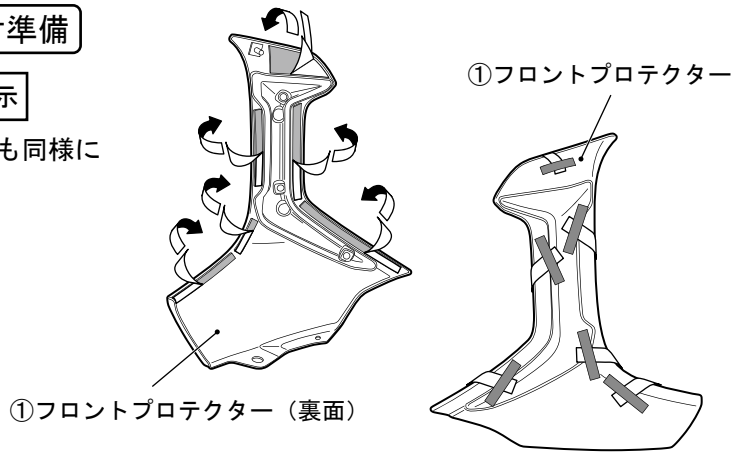
下穴を開ける際は、ケガキ針または画鋸を用いて行って下さい。

- ①フロントプロテクターの外周に合わせて、マスキングテープを貼り付ける。
(左図参照)
- ①フロントプロテクターを取り外し、左図斜線部を一方方向に拭いて脱脂し、③PACプライマー(N-200)を塗布する。
(左図参照)
4. マスキングテープを全て剥がす。

(3) 取付準備

LH 図示

※RHも同様に



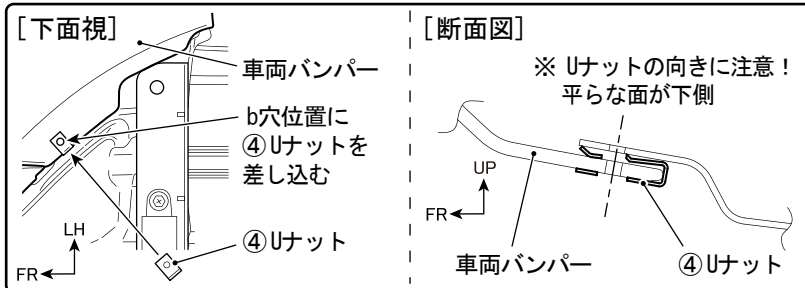
1. 両面テープ離型紙を一部剥がし、表側に折り返して、マスキングテープで貼り付ける。
(左図参照)

(4) 取り付け

LH 図示

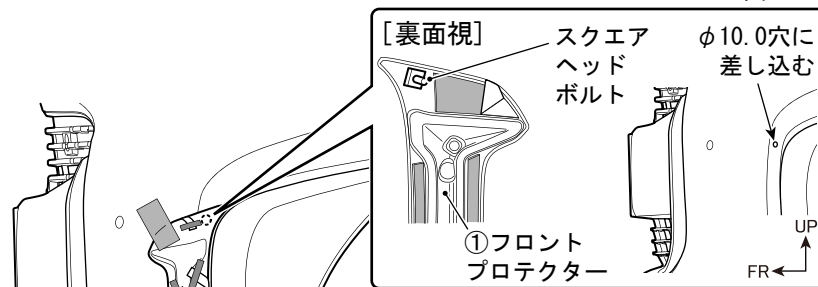
※RHも同様に

図C-1



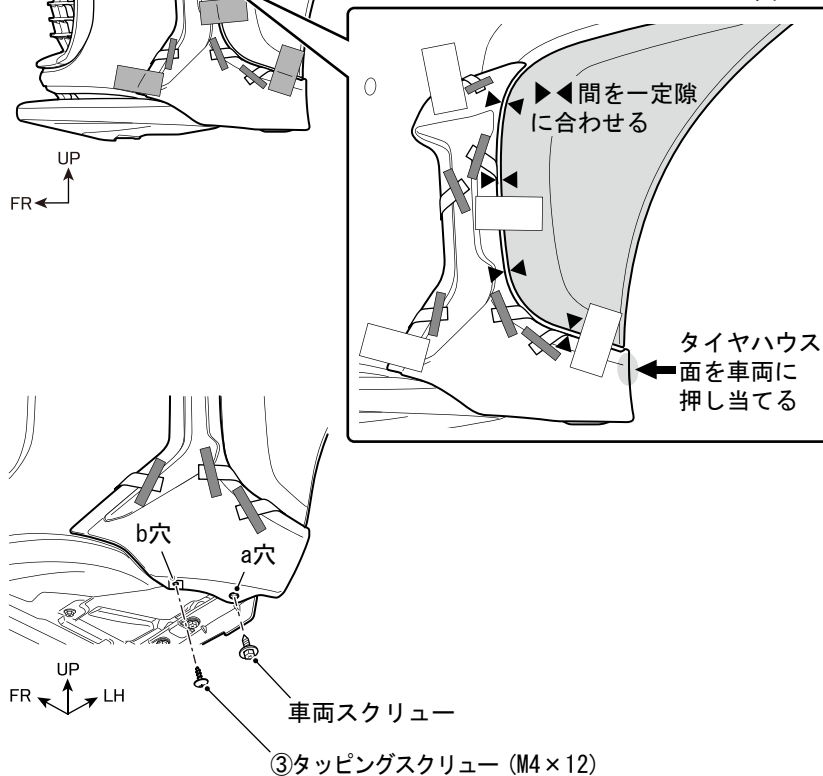
1. 車両バンパー下面の、仮合わせで開けた下穴の位置に、④Uナットを差し込む。
※Uナットの平らな面が下側になる様に注意する。
(図C-1参照)

図C-2



2. 仮合わせの手順と同様に、①フロントプロテクターのスクエアヘッドボルトを、車両バンパーに開けたφ10.0の穴に差し込む。
(図C-2参照)

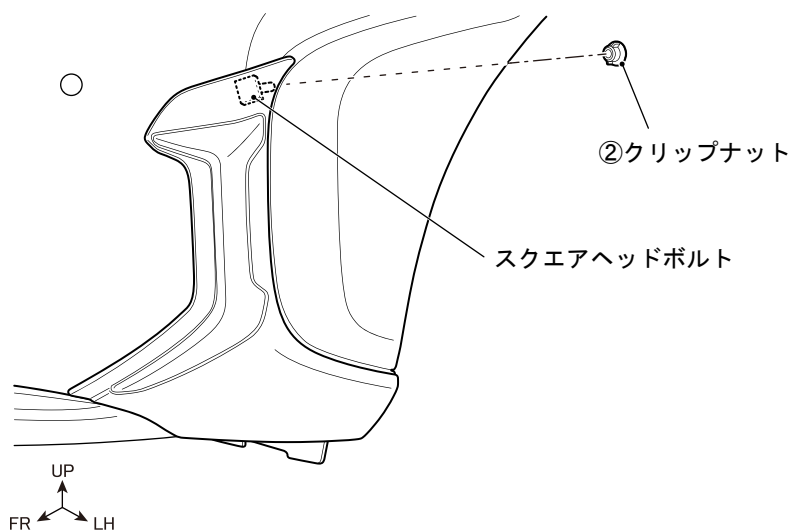
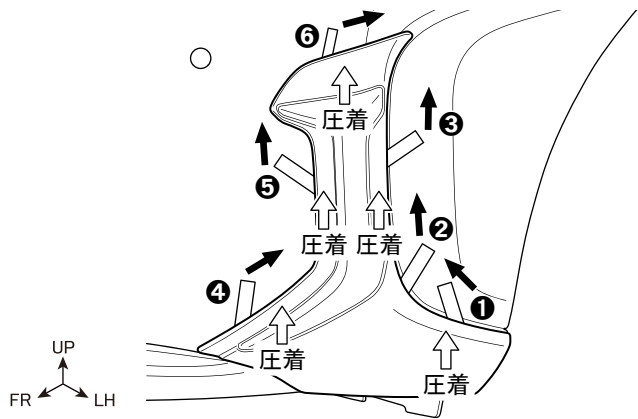
図C-3



- タイヤハウス面を車両に押し当て、下面のa穴位置を車両スクリューで仮締めする。
b穴位置を③タッピングスクリュー (M4×12) で④Uナットに仮締めする。
①フロントプロテクターと車両バンパーの黒樹脂部の隙 (▶◀間) を側面から見て一定隙になる様に合わせ、養生テープで仮固定する。
(図C-3、左図参照)

LH図示 ※RHも同様に

※離型紙を引き抜く順序



3. 取り付け位置が変わらない様に注意して両面テープ離型紙を、①から順に矢印の方向に引き抜き、圧着する。
(左図参照)

4. フェンダーライナーを一部めくり、バンパー裏側から②クリップナットをスクエアヘッドボルトに取り付ける。奥まで差し込んで締め込む。フェンダーライナーを元に戻す。
(左図参照)

5. RH側も同様の手順にて取り付ける。

6. 取り付けした両面テープ貼り付け位置を再圧着する。

7. 両面テープ貼り付け後、3時間以上放置してから仮締め箇所を本締めする。

脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

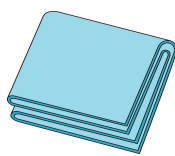


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
 - ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
 - ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

■ 取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



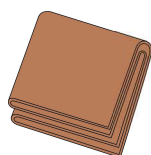
合成セーム皮



脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス




WET 用
ウエス




イソプロピルアルコール(IPA)
※純度 100%推奨

■ 脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。

 アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。



水拭き用バケツ



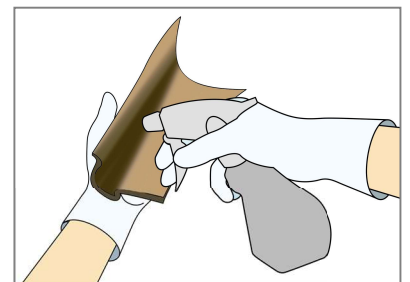
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

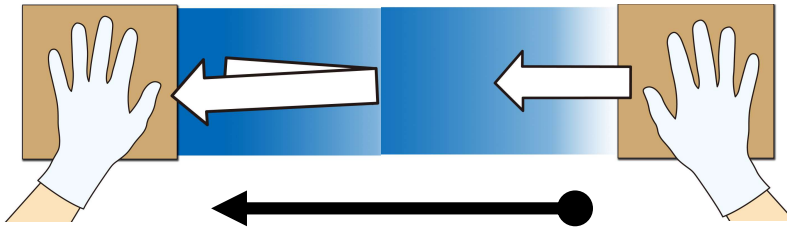
● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

脱脂剤を含ませたウエスで
1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に
拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち
WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

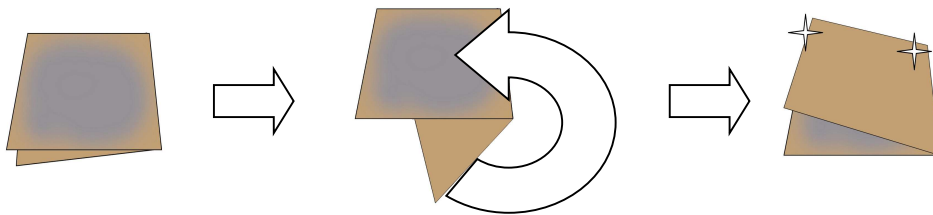
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを
行ってください。

(上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。)

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が
残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3~5 ブロック 毎にウエス表面を折り返し
ウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。



汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に
再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際に
ウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。
作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。
パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書に
したがって行ってください。